

法人（事業所）理念		子どもの心を育て、自立と社会性をはぐくむ支援											
支援方針		・子ども達の興味や関心を基に様々な活動に取り組み、行動を肯定的に捉え、自由で主体的な活動を保証し、達成感や自己肯定感を育みます。 ・支援者と保護者は互いに協力し合い、情報を共有することで、共に学び合いながら連携し、より良い「もぐもぐ」を目指します。 ・社会の一員として地域の人々と交流し、子どもと共に社会参加することで、誰もが助け合い、支え合い、一人ひとりの個性が尊重されるまちづくり、居場所づくりを目指します。											
営業時間		平日	14	時	0	分から	17	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		休日	9	時	30	分から	17	時	0	分まで		あり	なし
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	大人や友達とのやり取りを楽しめるよう、支援員が援助しお子さんが安心して過ごせる場所を提供します。持ち物の管理、道具や遊具の用意と片付けなど、環境の整備を自立的に行えるよう支援します。パーテーションを用意し、お子さんが自分のことに集中しやすい環境を作ります。タイムタイマー、絵や文字のスケジュール表などを使って、予定を分かりやすく伝えます。											
	運動・感覚	着席して活動する時間と、部屋のいろいろな場所で自由に遊ぶ時間を設けます。座った姿勢を維持しやすいよう、お子さんに合わせた椅子や机を用意します。文字をなぞったり書いたりすることや、迷路、道具を使った制作活動などを通じて、目と手や体を一緒に動かす練習をします。											
	認知・行動	具体的なものや絵カードを使った課題や、プリント学習の中で、数の操作、形、長さ、大きさ、時間などの概念を学びます。活動の終わりの時間をタイムタイマーで知らせる、時計にシールを貼って示すなどして、時間を意識して自ら行動することを支援します。パーテーションや個別の部屋を用意して視覚刺激の少ない環境を作る、イヤーマフを使用するなど、必要に応じて、個々の感覚特性に配慮した環境を設定します。											
	言語 コミュニケーション	自分のしたいことを伝える、手伝ってほしい時に援助を求めるなど、生活の中で自分自身を大切にするために必要な行動を、適切な場面で発揮できるよう支援します。お子さんの特徴やニーズに応じて、絵カードや身振りや文字を使ったコミュニケーション手段を活用します。プリント学習を通じて、文字で表したり、文字を読んで理解したりする力をつけます。集団遊びの中で「入れて」「貸して」と言って相手の返事を待つ、「いいよ」と応じる「今使ってるよ」「あとでね」と断るといった友達とのやりとりがスムーズにできるよう支援員が見本を見せたり助言したりします。											
	人間関係 社会性	グループ活動や、集団遊びの時間を通して、順番に行う、ルールを守る、友達と協力する、失敗や負けを受け入れるといった、他者と一緒に生活していくために必要なスキルを身に着ける機会を作ります。友達との関わり方に関して、支援員が見本を見せたり助言したりして、肯定的な関わりが増えるよう支援します。											
家族支援		困り事があった時には、管理者や児童発達支援管理責任者にいつでも相談できる環境を整えます。								移行支援		必要に応じて、学校でのお子さんの様子を見学したり、学校の先生とお子さんの様子や支援方針について、情報共有したりします。	
地域支援・地域連携		お子さんの通っている他の発達支援事業所などと情報共有するなどして連携を図ります。 児童センターなど地域資源を活用し交流を深めたり、もぐもぐのイベントに地域住民を招いて交流を深めたりします。								職員の質の向上		年2回以上の内部研修を行い、障害への理解を深めたり、新しい支援方法を学んだりします。毎朝のスタッフミーティングで、現在の支援指針について検討し、お子さんや支援方法に関する情報を共有します。職員への外部研修への参加を奨励します。	
主な行事等		季節の行事、近隣施設・公園へのお出かけ、食育プログラム											